

第2学年2組 算数科学習指導案

1 単元 かさ（本時5／6＋学活2）

2 本時の目標

- ・量感をもとにかさを予想することができる。

（思考・判断・表現）

3 展開

段階	児童の活動	教師の活動
導入 (5)	<p>1 2つの牛乳パックにそれぞれ入る水の量を把握する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しい牛乳パックは小さく見えるよ。 ・「L」や「mL」の単位を比べれば分かる。 ・見た目は違うけど、実際に飲むと同じくらいに感じるな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・給食で出されていた今までの牛乳パックと新しい牛乳パックの入れ物を提示し、どちらの量が多いか、なぜそう思ったか問う。 ・どちらの入れ物も 200mL 入ることを全体で示し、本時では量感を養うことが目標だと伝え、本時の学習課題につなげる。 ・学習課題を掲示する。
課題 (1)	自分の水とうにはどれくらい水が入るのかな	
展開 (31)	<p>3 自分の水筒にどれくらい水が入るのか予想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1L くらい入りそう。 ・1L よりはちょっと少ないと思う。 <p>4 実際に測って確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・牛乳パック4杯分だったよ。200mL が4杯分だから $200+200+200+200=800$ で800mL だ。 ・自分の水筒が0mL くらいだったから、友達の水筒は0mL くらい入りそうだ。 ・図を書いていけばわかりやすいかも。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">  </div> <p>5 友達の水筒にはどれくらい水が入るのか予想し、調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の水筒よりも入る量は少なそうだから0mL くらいかな。 <p>6 道具を使わずに、自分の量感を頼りにして鍋に1Lの水を入れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何となく1Lが分かるよ。 ・予想よりも多くなっちゃった。 ・いつも予想よりも少なくなるから、次からはそこも考えて予想したいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発問「自分の水とうにはどれくらいの水が入りますか」 ・「OL」のように言い当てるクイズではないことを伝え、「OLより少なそう」、「OLとOLの真ん中くらい」など、だいたいの予想でもよいことを伝える。 ・様々な方法で計測できるように様々な大きさのペットボトル、牛乳パック、リットルます、ミリリットルますを用意する。㊟ ・単位をつけた量、そう結論付けた根拠をノートに記すように伝える。 ・困っている児童には、「0mLが何杯分」というように実際に作業すればよいことを伝える。 ・言葉だけでなく、数式や図を用いて説明している児童を紹介し、称賛する。 ・数人の児童の水筒を全体に示し、どのくらい水が入りそうか問う。 ・量感を養うために、毎回実際に操作しながら量を全体で確認していく。 ・児童が自分の家から持ってきた鍋に1Lの水を入れるように指示する。 ・どれくらいの深さまで入れればいいか見当をつけてから作業するように伝える。 ・鍋に水を入れた後、グループで実際に量を測って自分の量感のずれを把握できる時間を設ける。㊿
整理 (8)	<p>7 本時の振り返りをし、量感が必要な場面を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1Lって考えると難しかったけど、牛乳パック5杯分って考えれば分かりそう。 ・授業前は量感がさっぱりなかったと思うけど、何回か実際に測っていくうちに少しずつ分かるようになってきた。 ・料理をするにも量感が大事なんだね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発問「今日、身に付けたことを生活で生かせる場面はあるかな」 ・振り返りが書けない児童がいたら、他の児童の考えを紹介する。 ・普段の生活でも量感が必要であると実感できるように、活動6で測った1Lという量が、だいたい5人分の味噌汁の量だと伝える。

4 評価

- ・実測で得た量感をもとにし、だいたいの量を見当付けることできたか。（活動4・6の計測の様子から）